

駐妻のヒューストン日記

『駐妻の挑戦』

第219回 香月真樹さん

あけましておめでとうございます。皆様、充実した年末年始をお過ごしでしょうか？2023年、新しい年が始まり、新たな1年はどんな年になるだろうかとワクワクしています。

我が家は2019年から2年間ニューヨークに駐在した後、2021年の夏にヒューストンへ異動してきて早1年半が経ちました。主人、娘、息子と私の4人家族。アメリカ生活は4年目に突入しました。

ヒューストンの人たちはマインドがとても大らかで優しく、明るく気さくで一步踏み込んだコミュニケーションがとても心地よく、ニューヨークで2年過ごした経験もあり、米国駐在開始当初よりも格段に早く、子ども達も私達もすぐにこの地に馴染めたように思います。

一方、慣れるまで大変だったこともたくさんあり、車中心の生活になった事が一番大きな変化でした。来たばかりの頃は運転も不慣れで、大きなピックアップトラック、猛スピードの車に恐れ慄き、手に汗握りながら運転していました。広大なスーパーで目当てのものを探すのにも一苦労しましたし、どこへ行くにも車移動でストレスがかかり、始めのうちは子ども達のスクールのお迎えまでの時間があつという間に感じました。今ではI-10を冷静に運転出来るようになった事は、当初の私から考えると信じ難い成長ぶりです。

車の運転に始まり、有り難いことに、ヒューストンに来てから、新しいことへ挑戦する機会にたくさん恵まれてきました。ESLのクラスに通い始めたこと、ピラティスを始めたこと、アメリカ人のママ友が出来たこと、RV旅行、ゴルフを始めたこと、などなど。中学生の頃ソフトボール部に所属していた事もあり、主人の会社のチームに加入し、ソフトボール大会に出たことも

大きな挑戦のひとつでした。中学卒業以来でしたので、長いブランクがあり、チームにどれ程貢献出来るのか、ご迷惑をかけてしまうのではと、初めはとても自信がありませんでした。それでも、練習や試合を重ねてゆくうちに、みんなで勝利に向かって団結する楽しさ、熱い気持ちを久しぶりに思い出し、とにかく元気に声を出してチームを鼓舞することに努め、とても楽しくプレーさせて頂いた事はとても良い思い出です。今年も4月の大会に出場するので、練習に励み、精一杯力を尽くしたいと思います。

直近では、友人と共に10キロマラソンに挑戦しました。私も友人も初心者でしたが、一緒ならばぜひ挑戦してみたい！とお誘いに乗ってくれ、二人で近隣の住宅街や公園を一緒にランニングして当日まで練習を重ねました。果たして走りきれるだろうかと不安を抱えていましたが、結果立ち止まる事なく、1時間15分で走り切ることが出来ました。ゴールで出迎えてくれた夫と子ども達の顔を見て疲れも吹き飛び、隣で励ましてくれて楽しく一緒に完走してくれた友人にも感謝の気持ちでいっぱい、走り切れた事がとても大きな自信に繋がります。頑張った自分を誇りに思うことが出来ました。



様々なことへチャレンジして気づけたことは、マラソンも駐在生活も、走り出してみると案外楽しく、ゴールまではあつという間なのかもしれないということです。ペースを掴むまでは時間がかかるけれど、道中で出会う人、応援の声、支えてくれる家族の存在、自分の周りの様々な要因が相關して力になって、今まで積み重ねてきた経験が自信になって、ゴールまで走る気持ちを支えてくれます。

どんな時も、どんな事も、はじめの一步を踏み出すことは、とても勇気が要るけれど、テキサスの雄大な空が、これからも、どんな挑戦も後押ししてくれるように感じます。一步一步を大切に、家族の挑戦を支え見守って、元気に楽しく駐在生活最後の日まで走り切りたいです。

ワン!モア ヒューストン

Vol.3 犬生いろいろ

川原志津香(家庭犬しつけインストラクター)

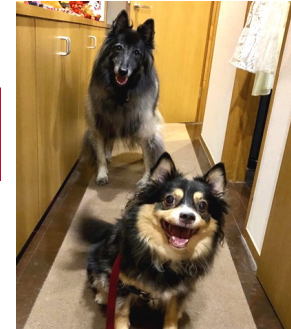
2022年1月に日本から一緒に引っ越してきた愛犬オスカーは現在8歳ですが、縁があって我が家に迎えたのは4歳6ヶ月のときでした。今回は、「ワン!モア ヒューストン」の主役を務めるオスカーとのこれまでの歩みをご紹介します。

前回のヒューストン滞在に同伴していた大型犬のヒューゴが10歳になる頃、もう1頭犬を迎えたいと思い始めました。大型犬2頭は車に乗らないので、体重が10kg位で、ヒューゴと相性が良い犬を探そうと思っていました。子犬でも成犬でも構いませんでした。ただ、しつけ教室でオスワリ、オイデなど色々な動きのお手本を見せる際に犬の表情が分かりやすいように、立ち耳で尻尾がある犬、という希望はありました。

犬種にこだわりがなかったため、飼育放棄された犬や野良犬を保護して新しい飼い主に譲渡する保護団体のホームページを度々チェックすることにして数ヶ月。目にとまったのは、「おにぎり」という名前の犬でした。

「おにぎり」は一般家庭で飼われていた後、保護団体に持ち込まれた雑種の犬でした。神経質なところがあり、新しいことに慣れるのに時間がかかる、と紹介されていましたが、トライアルとして2週間我が家で預かってみることにしました。

実際に家に来てみると、体を触られるのを嫌がる、見慣れないものに向かって大きな声で吠えるといった問題行動がたくさんある犬でした。それでも、ヒューゴとは初日から相性が良く、ヒューゴも仲間ができて嬉しそうでした。色々問題を抱えてはいるものの、トライアル期間中に改善も見られたので大丈夫だろうと、2018年10月、「おにぎり」は晴れてオスカーという名前になりました。



トライアル期間中の「おにぎり」(手前の犬)

オスカーは、練習を重ねて克服できたことがたくさんある一方で、他人への不信と他犬への警戒は想像以上に根深く残りました。オスカーが新しい生活に馴染むのに大きな役割を果たした先住犬ヒューゴが2020年に亡くなり、さらにその約1年後には家族で渡米することになり、オスカーの生活は信じられないくらい大きく変わりました。初めての飛行機での移動は、オスカーにとっては恐怖体験だったようで、渡米後、これまでは平気だった雷や花火の音も怖がるようになり、2階の部屋で夜中に雷鳴が聞こえ

てパニックになった後は2階に行くこと自体を嫌がるようになり、ヒューストンでの新しい生活に馴染むまで数ヶ月の間、試行錯誤を重ねました。

次の4月にオスカーが9歳になるとき、「おにぎり」としての過去と、オスカーとしての期間が並び、その後は、オスカーとしての犬生が長くなっていきます。日本を離れ、テキサスの広い空の下、広い芝生の庭を走り回る生活をしていると知ったら、オスカーの最初の飼い主は驚くことでしょう。縁があつてうちの子になったのですから、これからも楽しい時間を一緒に過ごしたいと思います。



おにぎりからオスカーになって8ヶ月。目の表情が柔らかくなりました。(写真右の犬)